

藤島地域審議会 提言書

平成25年12月16日

はじめに

6市町村の合併により新鶴岡市が誕生し8年が経過しました。この間、旧市町村の保有する地域資源、地域特性を活かした地域振興策の推進に配慮しながら、新市の一体感の醸成に努め、目指すべき都市像の実現に向けご尽力いただいておりますことに、衷心より敬意を表するものであります。

藤島地域審議会では、平成24年度からの第4期目において7回の審議会を開催してまいりました。この間、地域の課題を洗い出し、その解決と地域の活性化につながる施策に反映していただくことを目的に、協議するテーマを設定し議論を重ねてまいりました。

藤島地域は、旧藤島町におきまして「日本一ふじの里づくり」、「人と環境にやさしいまちづくり」をテーマに掲げ、地域が夢と希望を持ち、一丸となってまちづくりに取り組んでまいりました。観光拠点、商業施設など地域のシンボリックな要素が乏しく、少子高齢化、農家や商店の減少等が進む中で、地域の活性化には、地域資源をいかに活用して交流人口を拡大するかが大きな課題の1つであります。テーマを「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大について」と設定し、「農業資源を活かした交流人口の拡大」、「ふじ公園を活かした交流人口の拡大」、「庄内農業高等学校との連携による地域活性化」の3つの視点で協議を重ねて施策をまとめ提言書といたしました。

限られた時間の中ではありましたが、審議会として課題や施策を出し合い精一杯審議してまいりました。

提言内容には、必ずしも市の施策だけでなく、民間や団体に取り組むべきこと、市民が取り組むことなど、多様な内容が含まれております。地域の活性化につながる施策として反映していただくことを強く願い、ここに提言いたします。

最後に、市民が地域に夢と希望を持ち続けられる、活気に満ちた鶴岡市となりますようご祈念申し上げます。

平成25年12月16日

鶴岡市長 榎本政規 様

藤島地域審議会会長 小野木 覺

目 次

I 地域振興に関する提言

藤島の魅力を活かした交流人口の拡大

1. 農業資源を活かした交流人口の拡大

現状と課題	1
課題解決に向けた提言	1

2. ふじ公園（歴史公園）を活かした交流人口の拡大

現状と課題	3
課題解決に向けた提言	3

3. 庄内農業高等学校との連携による地域活性化

現状と課題	5
課題解決に向けた提言	5

II 藤島地域審議会開催状況 7

III 藤島地域審議会委員名簿 8

I 地域振興に関する提言

提言 藤島の魅力を活かした交流人口の拡大

1. 農業資源を活かした交流人口の拡大

【現状と課題】

藤島地域は、日本有数の穀倉地帯である庄内平野の中心地に位置し、田園風景が広がっている。集落が点在する風光明媚な田園地帯では、四季折々の気候、風土により豊かな農村文化が育まれてきた。中心部においては、東田川郡の発足からその中心として栄え、庄内農業高等学校、県の水田農業試験場、全農米倉庫など、農業に関わる機関、施設が集積している。これらを背景に、農業や農村文化の体験を通じた交流、環境保全型農業などの先駆的な取り組み、つや姫、はえぬきといった県産米の誕生地としての取り組み等が行われ、庄内農業の牽引に大きく関わってきた。

藤島地域にとって、地域振興を図る上で以上のような農業資源は今後も貴重な財産であり、地域への経済効果や活性化をもたらす交流人口の拡大を図る上でも不可欠なものである。

農業関連機関、施設は、専門的な技術や機能によりそれぞれの使命を果たしており、外国も含め内外からの来客が絶えないが、これらをつなげコーディネートする役割や観光拠点、商業施設がないことから、来客はほとんどが他に立ち寄ることなく通過しており、地域振興という視点からは、これだけの施設等がありながらその価値が十分に活かされていないものと考えられる。

一方では、就業構造の変化、少子高齢化、若年層の転出などを背景に、生活の場、教育の場などにおいて、農業との接点の希薄化、農業に根付いた文化の衰退が懸念されてきている。

今ある農業資源の保全、活用を念頭に、住民、機関、学生などにも働きかけながら、地域内の交流人口の拡大につながるような取り組みや仕組みを検討する必要がある。

【課題解決に向けた提言】

●来藤者の滞在時間の延長に向けた取り組み

藤島地域では、水田農業試験場への視察客を筆頭に、農業関係機関、施設への来客が多く、これらは地域にとって大きな流入人口である。各機関、施設を点から線へとつなげ、それぞれの来客から地域内を回遊し藤島地域の活性化に貢献してもらえようような仕組みづくりが必要である。

〈具体的方策〉

- ・農業関係機関、施設が、来客の藤島での滞在時間の延長に向け、情報交換や協議会の結成などにより連携を強化するような仕組みを検討する。
- ・農業者、研究者、実践者、これから農業を始める人などを対象に、農業の専門的な知識を体験、習得できるようなツアーの商品化を促す。
- ・農業関連機関、施設について、マップの作成、往来の多い場所への案内看板等の設置を検討する。

●地域の資源や特色を活かした観光資源の開発

藤島地域には、農業の研究施設や先駆的实践者から学びを得られる環境のほか、農業、農村文化の体験ができる環境も残っている。また、農産物の産地でもあり、このような地域の財産を活かして、誘客のための新たな仕組みづくりが必要である。

〈具体的方策〉

- ・施設や地域で農業やわら工芸をはじめとする農村文化を体験できるような仕組みづくりを促す。
- ・魅力のある食事どころづくり、既存の食事施設の連携による藤島の特色を活かした食事提供システムの構築などを促す。

●藤島地域や農業に関する有用な情報の発信

藤島を広く知らしめるための情報や藤島地域に集積する農業関係機関等による農業に関する有用な情報を国内外に発信する。

〈具体的方策〉

- ・環境保全型農業について情報発信する。
- ・農業に関する有用な情報について、農業関係機関、施設が連携し、国内はもとより外国へ発信、提供する方策を検討する。

●農業や地域の先輩との交流をとおした地域づくりの担い手の育成

子供達は、次世代の地域振興の担い手である。藤島地域振興の柱である農業について、学校教育の中で可能な限り、地域農業者の指導を受ける学習機会を取り入れる必要がある。

また、青年層については、生活スタイル、価値観の多様化の流れの中で、地域、農業への関心や思いが薄れてしまわないよう、地域のまちづくりの先輩と交流しながら、その意識を高め、考え、実現に取り組めるような仕組みが必要である。

〈具体的方策〉

- ・藤島中学校での地域の農業者との農業体験学習の実施を検討する。
- ・次代の地域づくりを担う人材の育成にむけ、地域の指導者の協力や参加を得ながら、講座の開催、グループの結成支援などを行なう。

2. ふじ公園（歴史公園）を活かした交流人口の拡大

【現状と課題】

藤島地域は、旧藤島町の時代からまちづくりの基本理念に「日本一ふじの里づくり」を掲げ、街路や公共施設への藤棚の設置に併せ、ふじをとおして住民の意識高揚を図る施策も展開してきたことから、自ら藤棚や盆栽を育成するなど、ふじに関する関心、意識が高くなっている。

平成 27 年度には、地域住民の悲願であったふじを中心とした公園が「歴史公園」として整備される。ふじの花の名所ができることで、住民が楽しめることはもとより、地域の交流人口の拡大が期待されている。

歴史公園の整備にあたっては、構想に市民の意見を取り入れ、これまで周知にも取組まれているが、住民への浸透はまだ進行段階にある。これを一層強化して公園の完成までに多くの住民の関心を高め、地域が一体となって歴史公園を盛り上げる意識を醸成していくことが求められる。

また、多くの方々から来園していただける公園を実現するために具体的な取り組みの計画や進行管理の方策が必要であるが、隣接する旧東田川郡会議事堂、旧郡役所、図書館など周辺環境も活用し、多くの来園を想定した駐車場の配置、便益施設等の設置の配慮、観光拠点としての他の公園との差別化などの点も念頭に進めることが求められる。

【課題解決に向けた提言】

●魅力ある公園づくり

歴史公園を多くの方から繰り返し来園いただけるような魅力ある公園にするための具体的な取り組みの計画、進行管理の方策について、地域の住民、機関・団体との協働も見据えて検討するとともに、地域に公園の整備について浸透を図り、整備内容に理解を得る必要がある。

〈具体的方策〉

- ・「歴史公園」の名称について、愛称の付与等を含め、住民が親しみやすく、集客にも結びつくようなあり方を検討する。
- ・藤島の象徴となるもの、藤島にまつわる物語などを新たに創ることやそれに基づいて展開できる取り組みを検討する。
- ・イベントの開催、園内の装飾などにより、ふじの花のオフシーズンにも集客できるような方策を検討する。
- ・ふじの開花時期における来客の利便、歴史公園への誘導を図る方策として、藤島駅から全農米倉庫を経由する散策路の提示を検討する。
- ・歴史公園に関わる情報について、インターネットなどの有効な手段で効果的に発信する。

●地域住民の交流のステージとしての公園づくり

歴史公園は、地域住民にとっても、日頃から憩い、交流などのできる場として最大限に活用されるよう、周辺環境も含め、運用や仕組みの検討が必要である。

〈具体的方策〉

- ・園内のふじの育成・管理について、開園時から適正になされるよう、担い手となるボランティア団体や人材の育成、役割の明確化などを図る。
- ・住民などが園内で花を植えることなどを通して交流を深められるよう、花壇の設置等を検討する。

●来園者の利便性の確保

歴史公園は、駐車場が少なく、来園者の利便性と登下校で通過する児童の安全を確保する必要があるため、ふじの花の見頃の期間には、駐車スペースの確保、表示等の取り組みが求められる。

3. 庄内農業高等学校との連携による地域活性化

【現状と課題】

県立庄内農業高等学校は、明治34年に創立して以来、112年に渡って1万6千人余りの人材を輩してきた。かつて生徒の往来は藤島地域の活力を象徴する風景の1つでもあったが、生徒数は減少の一途をたどり、まちの風景も様変わりしている。少子化、大学進学率の上昇、就農の減少などの社会情勢の変遷の中で、農業高校を取り巻く情勢は厳しさを増しており、県内でも高校の再編・統合の動きの中で産業高校への統合が進められ、平成26年度からは庄農と置賜農業高校の2校となる。

藤島地域では、地域との深いつながりを築いている庄農には、今後も農業従事者を育成する高校としてはもちろんのこと、地域活性化の担い手の一翼としてもさらなる発展を願うものである。県、高校の取り組みが重要であるが、生徒が、学校生活や地域とのかかわりの中で、3年間の高校生活が本当に楽しかった、庄農に来てよかったと思えるよう、地域にも庄農への一層の支援やよりよい関係づくりが必要となっている。今後の地域づくりでは、地域の機関、団体、住民が一体となって、庄農との交流、庄農の地域参加への支援などを念頭に組み込んでいくことが求められる。

【課題解決に向けた提言】

●魅力ある高校づくり

高校として、庄内地域はもとより全国からも注目され生徒を受け入れられるような学校づくりが望まれる。学科の創設、受け入れ体制の充実など、改善方策の検討と実現を、県及び関係機関に働きかける必要がある。

〈具体的方策〉

- ・子供や社会の将来的な需要を見据え、求められる学科を創設することについて検討を働きかける。
- ・就農、就職につながる学科のほかに、農業やバイオに関する研究など、大学への進学につなげやすくなる学科、システムの構築の検討を働きかける。
- ・進学する高校を検討する子供や親が見学しやすいような環境づくりを働きかける。

●生徒が地域を舞台に挑戦したり、地域に貢献できる場・機会の創出

高校は、進路に備えて勉学に励むほかにも、個々の可能性を追求したり、挑戦のできる貴重な時期でもある。藤島地域を舞台にそのような場所、機会に恵まれれば、生徒が貴重な経験を積めるだけでなく、地域との間にも親密な関係が芽生え、地域の活性化にも大きく寄与するものと考えられる。

庄農では、食品の実習の成果品であるうどん、乳酸飲料などが学校行事で振舞われ、長い間地域で親しまれており、また、米粉のお菓子の市販化を見据えた研究などにも取り組んでいる。このような点を糸口に、生徒が、成果を普段から地域で発表したり提供できる環境を整えるような取り組みが求められる。

〈具体的方策〉

- ・生徒の経営、運営による飲食店等の設置、展開などについて、検討を働きかけ、地域ぐるみで実現に向けて支援する。（うどん、乳酸飲料など）
- ・食品の市販化に向けた研究・開発を支援する一環として、地域内の食品製造・加工施設（庄内たがわ農協、加工クラブあおぞら、産直「楽々」、エーブル21など）の活用を支援、促進する。
- ・地域活動を展開する青年団体との交流の場の創出を促す。
- ・庄内農業高等学校地域連携協議会や地域の事業所などで、夏休みや春休みの生徒をインターンシップ、アルバイトなどによる職場体験として受け入れる体制を検討する。

●庄農が開催する行事等の情報発信

庄農で開催される行事には、一般に開放され、来場者と学校との交流が図られるものもある。より多くの来場を得るために、行事について地域へ開催告知を一層効果的に行なうことが求められる。

〈具体的方策〉

- ・庄農の一般開放する行事、公開講座等の参加者募集等について、「広報つるおか」ほか各種広報媒体への掲載、さらに、藤島地域の住民への全戸回覧により来場、参加を促すよう働きかける。

II 藤島地域審議会の開催状況

平成24年度

※第4期の審議会は平成24年度第2回から

回数	開催日	内 容
第1回	5月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市の平成24年度予算及び主な事業の概要について ・藤島地域審議会の提言内容への対応について
第2回	8月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校適正配置について ・地域審議会協議テーマについて ・藤島ふれあい食センター調理業務の民間委託について
第3回	11月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市総合計画実施計画の策定について ・鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について ・藤島地域審議会の審議テーマについて (案)「藤島の魅力を活かした交流人口の拡大方策について」
第4回	2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・視察研修 山形県農業総合研究センター「水田農業試験場」 山形県立庄内農業高等学校

平成25年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市の平成25年度の予算及び主な事業の概要について ・「地域振興計画」の策定について ・平成25年度の地域審議会の進め方について ・藤島地域審議会テーマの協議 「議論の視点② ふじ公園（歴史公園）を活かした交流人口の拡大について」
第2回	6月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・藤島地域審議会テーマの協議 「議論の視点① 農業資源を活かした交流人口の拡大について」 「議論の視点③ 庄内農業高等学校との連携による地域活性化策について」
第3回	9月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興計画の策定状況について ・藤島地域審議会テーマの協議
第4回	11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・「鶴岡市総合計画後期基本計画」の素案について ・「藤島地域審議会 提言書」(案)について

Ⅲ 藤島地域審議会委員名簿

任期：平成 24 年 7 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日

役職	所属団体・役職名等	氏名	備考
会長	出羽商工会 会長	小野木 覺	
副会長	因幡堰土地改良区 理事長	富 檜 達 喜	
委員	藤島町内会長連絡協議会 副会長	板 垣 久 喜	
委員	庄内たがわ農業協同組合 代表理事専務	齋 藤 泰 宏	
委員	庄内たがわ農業協同組合藤島支所生産組合長会 会長	岩 浪 嘉 弥	
委員	藤島地区民生児童委員協議会 会長	阿 部 正 良	
委員	藤島中学校 P T A 会長	松 浦 伸	
委員	藤島体育協会 会長	丸 山 鎮	
委員	藤島芸術文化振興会 会長	澁 谷 俊 一	
委員	藤島老人クラブ連合会 会長	高 橋 徳 雄	
委員	藤島地域婦人会 会長	高 山 千 代 子	
委員	出羽商工会女性部藤島支部 支部長	富 檜 菊 子	
委員	庄内たがわ農業協同組合藤島支所女性部 部長	小野寺菊子	
委員	出羽商工会青年部 部長	堀 口 大 介	
委員	鶴岡市消防団藤島方面隊 隊長	富 檜 正 明	
委員	公募	上 鉢 浩 美	
委員	公募	奥 山 康 光	
委員	公募	佐 藤 一 晴	
委員	公募	相 馬 大	
委員	公募	渡 部 綾 子	

前委員

所属団体・役職名等	氏名	備考
前藤島町内会長連絡協議会 会長	安 藤 良 昭	H25.4.25 退任
前庄内たがわ農業協同組合藤島支所生産組合長会 会長	成 田 元 気	H25.3.29 退任
前庄内たがわ農業協同組合藤島支所女性部 部長	上 林 節 子	H25.3.19 退任

